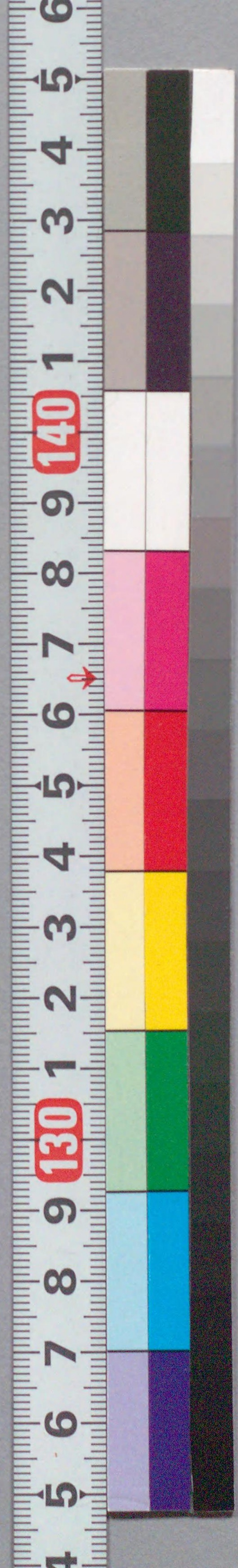


見物左衛門

207
483



国立国会図書館 見物左衛門：2巻 207-483

ガラス使用

寛政十一年
末彦部
足利右衛門

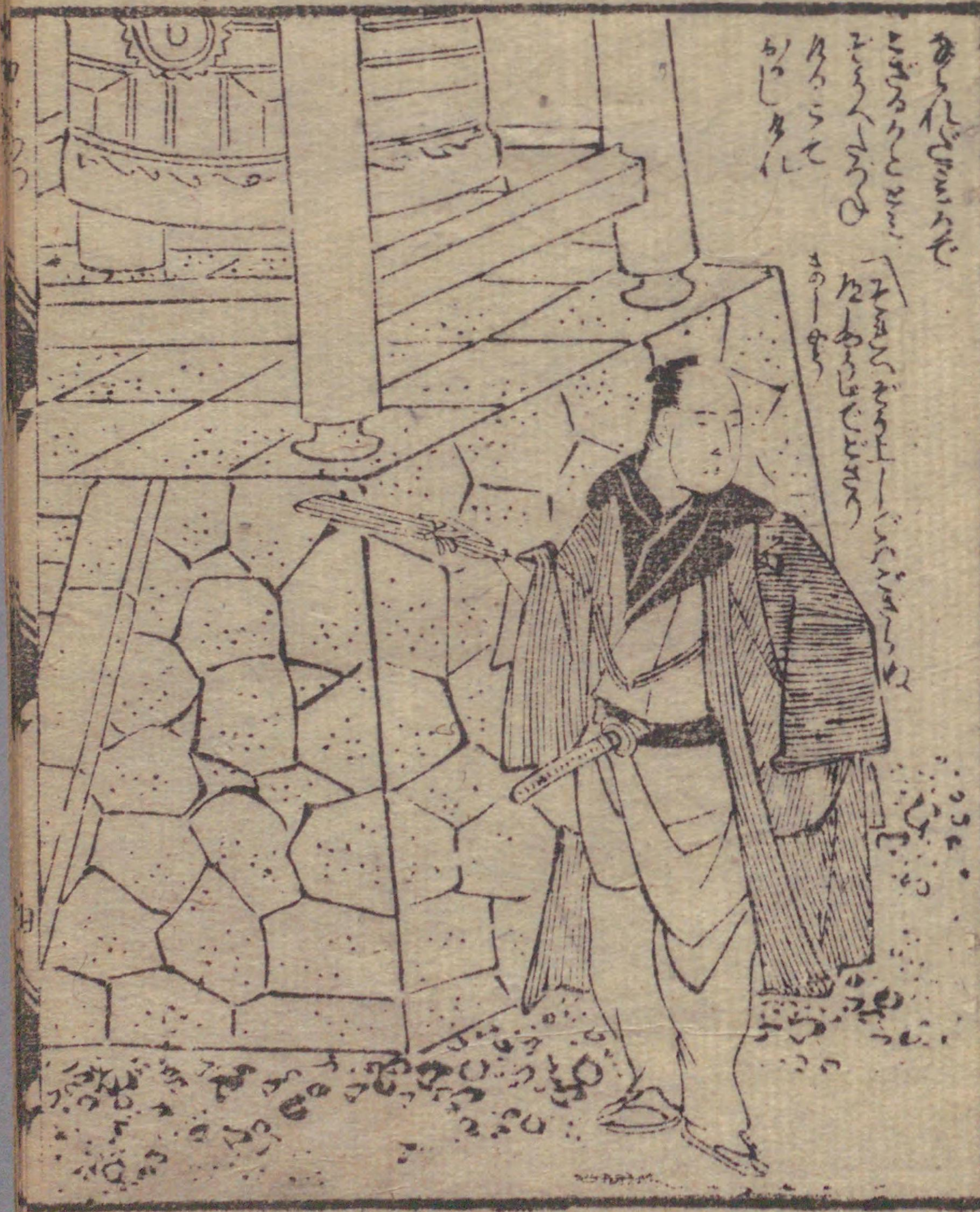
一日永壽堂主人年礼未く予謂曰近世
の釋史の聖賢は語を以て人を教諭理屈
を以て人を争ふ希い其の如き
こと止む物初童の賦成を以て赤本が意
みならずと懐より玉成出し是を種とし之を
依ら見之に片名訂双六なり判符應心雷を
双六の趣向より是れを以て偏

甲
書

此の羅大を
名ぬ







あつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ

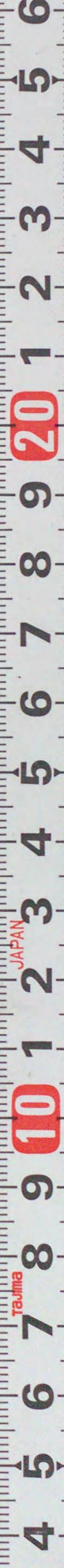
あつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ



あつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ

あつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ
 まつたてのまへ









ときがきおひ
 つつりまは
 らむをまよ
 らひるま
 ほやく大ん



あんないあ
 どのんち
 ちんち
 まあ



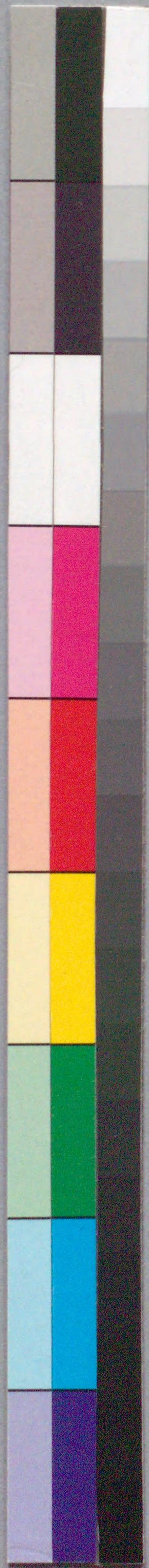
207
483

いりま化亭

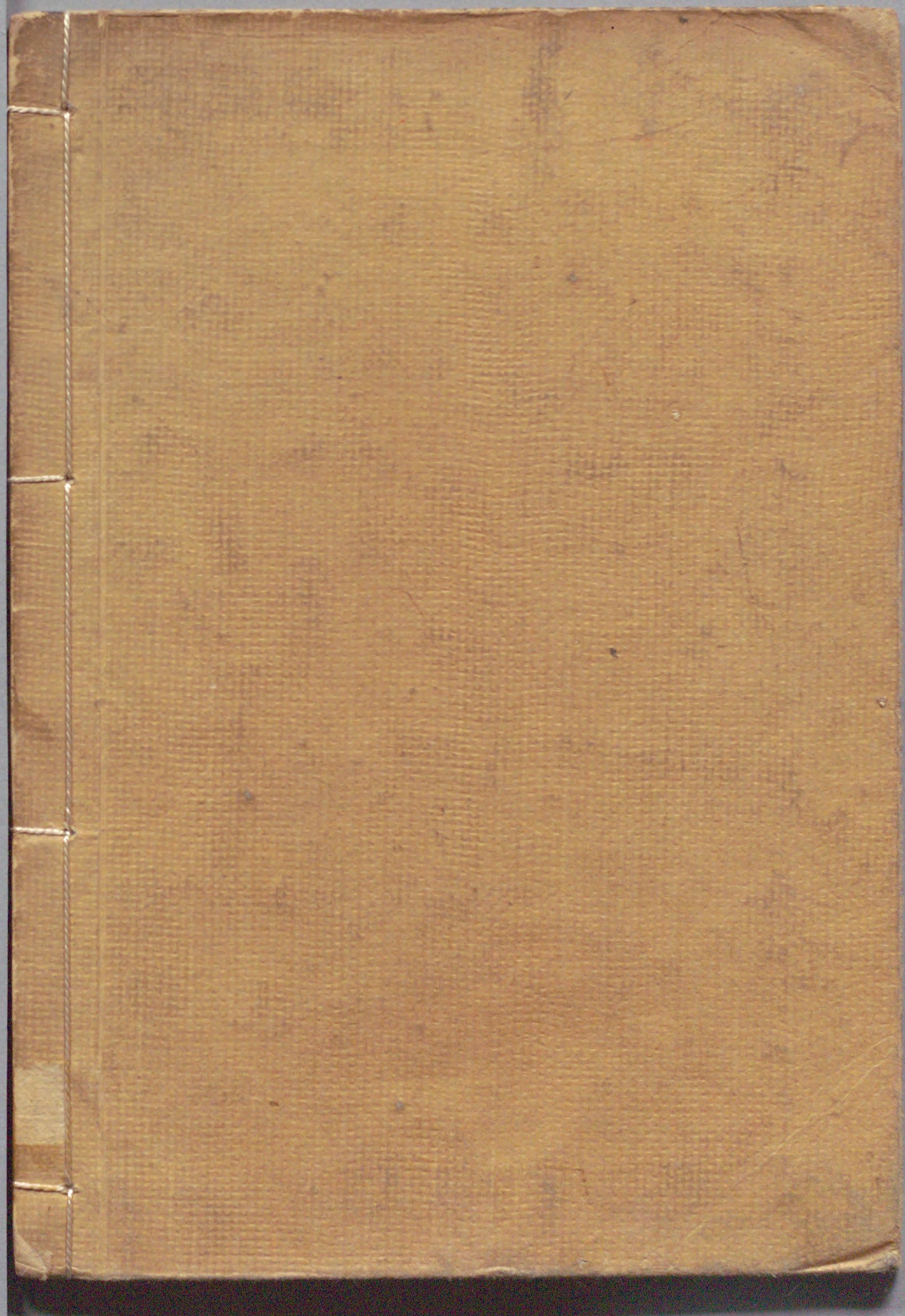


Handwritten text in cursive Japanese (sōsho) surrounds the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text includes names and descriptions related to the pagoda and its location.





国立国会図書館 見物左衛門：2巻 207-483



ガラス使用

